

平成24年度事務事業評価シート（23年度実施事業分）

事業番号	04 12 03	中期総合計画主要施策番号	3-13	担当課	部・課	薬事管理課	
事業名	薬物乱用対策事業			内線	2676		
				E-mail	yakuji@pref.nagano.lg.jp		
実施期間	S22 ~	根拠法令等	麻薬及び向精神薬取締法、薬物乱用防止新五カ年戦略等				
実施方法	県が直接実施、長野ダルクに委託し実施					国庫・県単	県単独事業

事業の概要等	目的 (必要性)	依然として後を絶たない薬物乱用を防止するため、県民各層に対し、薬物乱用がもたらす健康被害と社会に与える重大な被害を周知し、薬物乱用防止意識の高揚を図り、薬物乱用のない社会環境づくりを推進する。					
	対象	一般県民					
	目指すべき姿	薬物乱用防止に関する意識の高揚を図り、覚せい剤等の薬物乱用者を減少させる。					
	事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・長野県薬物乱用対策推進協議会及び地区協議会(4か所)による啓発活動 ・若い世代への「薬物乱用防止」意識啓発事業(委託事業) ・薬物乱用防止指導員の啓発活動 ・啓発用ラジオスポット ・不正大麻・けしの抜去 ・薬物乱用相談窓口事業の実施 等 					

事業コスト	区 分		単位	22年度	23年度	24年度(当初)	23年度事業費の主な内訳 ・報償費:1,065千円(薬物乱用防止指導員報償) ・役務費:415千円(ラジオスポット) ・委託料:502千円(委託先 長野ダルク)
	最終予算額 (A)		千円	3,172	4,492	3,150	
	決 算 額 (B)		千円	2,934	3,988	-	
	B(H23はA)のうち一般財源		千円	-	-	-	
	概 算 人件費	従事する職員数	人	1.70	1.70	1.70	
	概算人件費 (C)		千円	14,139	14,039	14,039	
概算事業費 (B(H24はA) + C)		千円	17,073	18,027	17,189		

事業実績	成果指標・活動指標内容		単位	22年度	23年度	24年度(見込)	左記以外のH23年度実績 薬物乱用防止指導員の主な活動 ・小中高校生及び大学生等への啓発 : 168回 21,325人 ・一般住民への講習・啓発 : 141回 25,830人 不正大麻・けし抜去本数 ・大麻 : 4,333本 ・けし : 2,623本 (効率指標 算出式) 概算事業費 / 事業実績の総件数
	「薬物乱用防止」意識啓発事業実施校(活)		校	20	20	20	
	ヤング街頭キャンペーン実施ヶ所数(活)		回	20	21	20	
	薬物乱用相談窓口の相談件数(活)		件	189	230	200	
	<効率指標(単位当たりコスト等)>		千円/件	74.6	66.5	71.6	

事業の成果	事業の目標(H23)			事業成果・評価			評価区分
	「薬物乱用防止」意識啓発事業として高等学校20校で講演会を開催する。 また、指導員による啓発や、街頭キャンペーンを実施する。			「薬物乱用防止」意識啓発事業として高等学校20校4,365人に対して講演会を開催した。また、指導員による啓発活動や街頭キャンペーンを実施し、啓発活動を行った。 薬物乱用対策推進協議会を通じ、関係機関で連携をしながら啓発を行うことができた。			b 期待どおり

事業の課題	区 分		判 定 ・ 説 明				
	事業ニーズの変化	増加	横ばい	減少	判定の説明 現在、薬物乱用は世界各国が直面している深刻な問題である。大麻、向精神薬、違法(脱法)ドラッグ等の乱用薬物が多様化しており、携帯電話等による売買等で手口も巧妙化している。県では、教育委員会、県警本部、薬剤師会等の関係機関、関係団体と連携をとりながら引き続き事業を進めていく必要がある。		
	県の関与を見直す余地	余地なし	当面余地なし	余地あり			
	事業改善(有効性・効率性)の余地	余地なし	当面余地なし	余地あり			

総合分析等	総合分析 (今後の課題、取組方針等)	若い世代への「薬物乱用防止」意識啓発事業(中・高校生への正しい知識普及を図るため薬物乱用体験者の体験談を直接聞き、若い世代の薬物乱用防止意識の高揚を図る)は、実施を希望する学校が多く、希望校全てで講演を行うことができなかった。 乱用される薬物の多様化、薬物の入手方法の多様化、薬物の売買のが悪質巧妙化、乱用者の低年齢化等が懸念される状況の中、引き続き若者を中心に啓発活動を推進していく必要がある。					
	特記事項						